中一国語科通信

第1号
令和2年7月31日
国語科1年担当
堀之内・日髙・奥池

百字の獅子

文章を論理的に読み解く「論理の虎」はだいぶ定着してきました。六月に入り始まったのは、「百字の獅子」。これは表現力を養う取り組みで、月に一回、三つのテーマの中から好きなものを選び、それにちなんだ百字の文章を自由に作文するというもの。テーマは①その月のイメージカラー②風物③祝日に関すること。六月は、イメージカラーが「紫」、風物は「雨」、祝日は無いので、「結婚」にしました（「ジューン・ブライド」、わかります？）。各クラスの秀作を二点ずつ、紹介しますね。

〈雨〉
「いつもの水たまり」
一組　福山結月

雨が降って、いつもと変わらぬ駐車場のへこみに水たまりができた。のぞいて見ると、小さいころの自分がいた。スニーカーで水たまりに飛びこんだ時、アメンボを見つけた時、そして今の自分、「これからも見ていてね。」

▼表現がよく練られていて、文章に奥行きを感じます。プリント裏の構想メモもみんなに見せたいくらい！

〈紫〉
「穏やかな思い出」
一組　伊東祐佳

雨がしとしと降る中に紫色の紫陽花がほほ笑むようにこちらを見ている。幼い頃、祖父母と一緒に行った「山之口あじさい公園」で見たあの紫陽花と同じ色だ。祖父母の優しい顔を思い出し、私の心は穏やかになるのだ。

▼中心に据えるものがしっかりすると、文章が深くなりますね。擬人法も用いてあって、意欲を感じます。

〈雨〉
「雨の魔法」
二組　永井美安佳

しきりに雨が降り続けて、一日中うす暗い日が、梅雨の時期は多い。雨が降ると気持ちが落ちこむが、蛙は楽しそうにはねて、私の髪もあちこちはねる。つられて私も、楽しくなっていく。「雨」はとても複雑な魔法だ。

▼マイナスなイメージから始まり、二つの「はねる」によってプラスのイメージに変わる。文章の構成と表現の工夫がとても素晴らしい。

夏の午後口に運べる氷より　心地よき銀の匙のつめたさ

〈雨〉
「雨音」
二組　尾﨑愛子

六月といえば雨だ。雨の日は、あまりすっきりしないが私は、そんな雨を気に入っている。雨の時は、普段聞くことができない自然の声を聞けとてもおちつくことができるからだ。私は、そんな不思議な雨の日が楽しみである。

▼雨の音を「普段聞くことができない自然の声」とたとえる工夫が見られました。神秘的な文章にまとまっていますね。

〈結婚〉
「架空人物との結婚」
三組　長友朱理

現在日本では人間とは結婚せず、架空人物と結婚するケースが増えている。現実の人間では満ち足りない・離婚のリスクを無くしたい、などが理由のようだ。人類を存続させるため人間同士で結婚してほしいものだ。

▼着眼点がいいですね。思いがけない方向から「結婚」を論じてくれました。よくまとまっています。

〈紫〉
「紫の王様」
三組　福嶋大希

紫色の食べ物の中で葡萄は王様だと思う。理由は、葡萄には甘みがあり、美味しく、栄養分が豊富で沢山の方から人気があるからである。また、アイスなどの材料にも使用されて、加工しても美味しいという理由もある。

▼葡萄の魅力を余すところなく表現してくれました。三文めも効果的です。

コラムマラソン　第一回

「一中の国語」

堀之内圭子

一中に入学して四か月経ちましたが、国語の授業はどうでしたか。

「論理の虎」「古事記」「百人一首」「Q&A」、そして「百字の獅子」と、一中独自の取り組みが盛りだくさんでしたね。皆さんの読解力、思考力、表現力を鍛えるべく、国語科の教員は全力で授業準備をしています。合言葉は「脳みそを動かす！」夏休みも脳みそを怠けさせないで、うんと動かしてください。「夏の虎」もそのために頑張りましょう。二学期も、しっかりついてきてくださいね！

百人一首大会 7/27

まだあまり札を覚えていない段階での大会でしたが、白熱しましたね。現在二十首を学習したので、どんどん覚えて次の大会に臨みましょう。

とうとう待ちに待った夏休み！　疲れた体をしっかり休ませて、元気に戻ってきてくださいね。